

974

五月二十七日

甲

二月三十日  
三月十日

一四八二

七九五二

十四  
方北七

十四  
六四三六

監督局長

總務課長

次官  
政務官

鐵道大臣

柿岡鐵道敷設免許ノ件

免許狀  
案

前田氏  
後藤氏  
少佐  
折田氏

36 25

番號  
(茨城縣經由)

柿岡鐵道株式會社  
發起人 海東惣一郎  
外四十九名

右申請係ハ茨城縣新治郡高濱町ヨリ  
同郡柿岡町ニ至ル鐵道ヲ敷設シ旅客及  
貨物ノ運輸營業ヲ為スコトヲ免許ス  
地方鐵道法第十三條ニ依ル認可申請ハ  
大正十四年六月二十七日迄ニ之ヲ為スヘシ  
十四年六月二十七日  
鐵道大臣

柿岡鐵道株式會社發起人海東惣一郎外四十九名對シ鐵道敷設免許付陸軍省・例文通牒

七月十五日達濟

圖面別紙

案ノ二(官報掲載)

七月二十日官報掲載

鐵道免許狀下付 大正十四年六月二十七日  
柿岡鐵道株式會社發起人海東惣一郎外四十九名對シ鐵道敷設免許狀ヲ下付セリ其起業目論見ノ概要左ノ如シ

(鐵道者)

動力軌間  
蒸氣 三呎六吋  
起終點  
茨城縣新治郡高濱町  
川那柿岡町

延長哩程 建設費  
九哩五十六錢 全六拾萬圓

丙 鐵道省

理由

本件ハ地方開發上及交通上有益ナル企業ナル  
トラス成業確實ト認ラレ仍テ同業ノ通慶  
理可然ト認ム

進テ本願ト併行スル石岡町起點柿岡町  
至ル柿岡軌道敷設願アルモ實地調  
査ヲ為シタル結果軌道ノ經路ハ本願ノ經  
路ニ劣ルモノト認ム

鐵道軌道

鐵道 綫	哩 程	動 力	終 點	經 過 地	起 點	大正十二年十一月廿五日 日出願
						大正十二年十一月廿六日 日受付
網ノ内 陶係	九哩五十六 六	蒸氣 機関			茨城縣 新治郡高濱町上 字北極寺 (高濱町)	大正十二年十一月廿五日 日出願
				石岡町、志籠村、 極村	新治郡高濱町上 字北極寺 (高濱町)	大正十二年十一月廿六日 日受付
				柿岡町上 字柿岡上宿	柿岡町上 字柿岡上宿	大正十二年十一月廿六日 日受付
					柿岡鐵道株式會社	
					資本金 海東惣一郎外 四十九名	
					三吹方町	
					新設軌道 道路上	

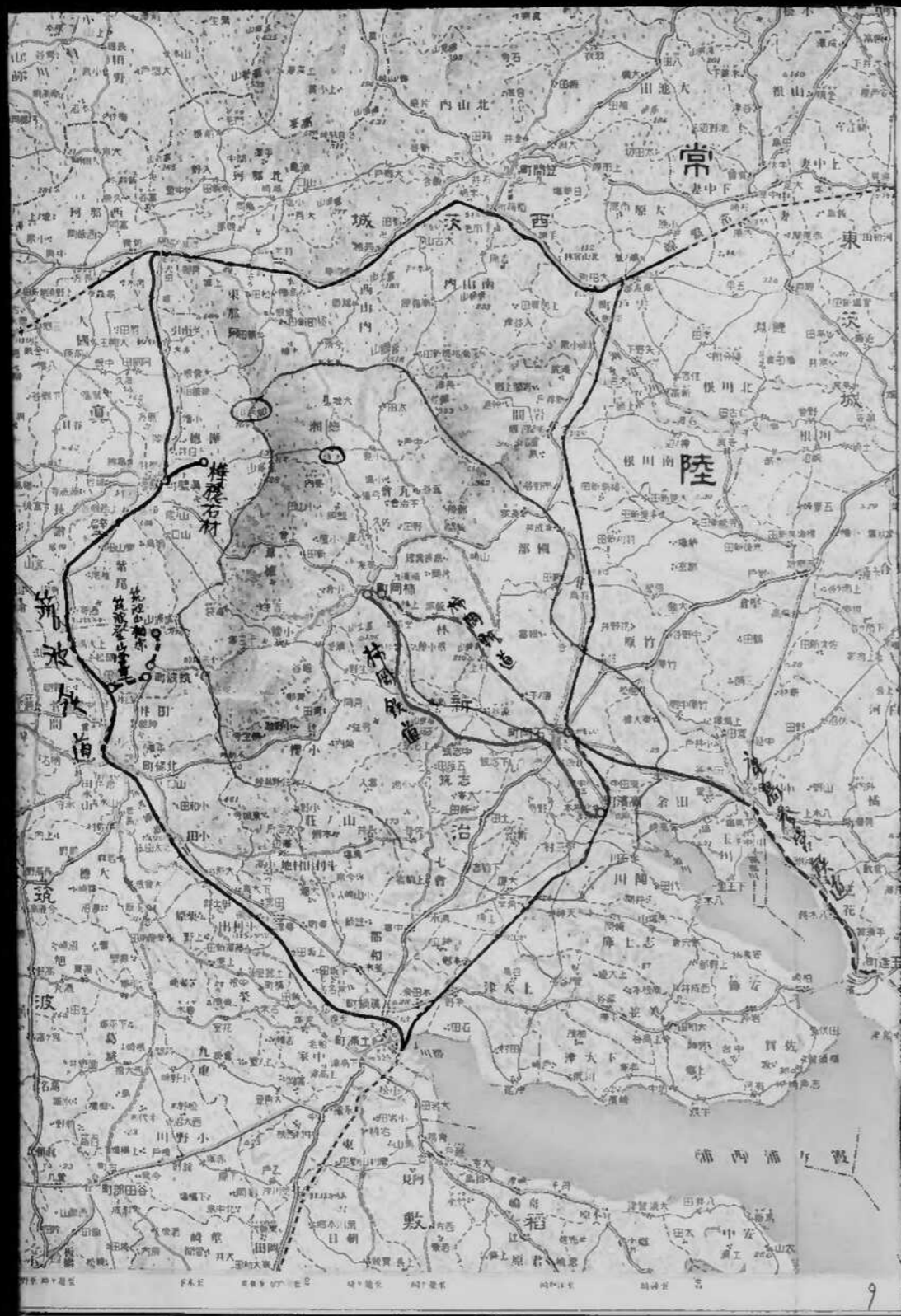
めくれず

知事  
本出形跡ハ最モ急ニ軌道ハ沿岸軌道トシテ出ルモシテ改定ノ地方鉄道トシテ  
此ノ形跡ハ先々之ニ在リ現在何等ノ苦難ヲ有スルナラバ不便不敷ニ以テ本邦  
ノ官現ノ時ハ是等ノ不便ヲ緩和スルノ方ニ在リ又地方商港ノ一助ナリ且時  
來中鉄道ノ延長ハ水戸カ少保ノ接續ノ場合ハ益利便多ク有  
望ナル事トシテ遂行シ得ルニト欲望スルハ是等ノ事トシテ

海東物一印  
分 四十九名

考	備	人	起	發
	資本金文 十種設帳	資本金 五拾萬圓 五拾萬圓 九分壹厘 利發割合		
	本件ハ最モ急ニ軌道ハ沿岸軌道トシテ出 願シタルニ以テ地方鉄道 トシテ遂ニ申請ナリ且軌道ノ動力トモ 地方鉄道トシテ場合ハ軌道ニ以テ 地方鉄道トシテ場合ハ軌道ニ以テ			

柿岡鐵道  
柿岡軌道  
實地調査復命書



復命目次

- 一 柿岡鐵道 起業、概要
- 二 柿岡鐵道下柿岡軌道、優勢
- 三 柿岡鐵道線路
- 四 柿岡鐵道勢力圈内狀勢
- 五 現在、高浜、石岡、柿岡、三町間、交通
- 六 柿岡鐵道經濟
- 七 結語

自明治廿四年三月二十五日

柿岡鐵道  
柿岡軌道  
實地調査復命書

調査(自三月二日  
日時(至三月六日)

大正十四年三月二十五日

技士 栗野 惣吉  
高志村 穂

監督局長 寛正太郎 殿

柿岡鐵道  
柿岡軌道  
起業、概要

柿岡鐵道及柿岡軌道、其名、此、柿岡盆地

中心トスル一町七ヶ村約九方里(信二山根地方ト稱シテ柿岡町 志瀬 瓦會 華穂 林 小階 園部 小櫻 各村ノ人口二六五三九人)ノ地方が常盤 水産 筑波 三線還状ノ中間ニ存在シ 鐵道ニ出ズルモ 數里ヲ要スル不便ヲ除カンガ爲メ 企劃セラレタルモノニカカリ 共ニ柿岡町ヲ当地ノ方ノ經濟的中心地タル石岡町及有線ニ連絡セントスル競願線トス

而シテ其ノ線路ハ別項詳細ニ述ル 柿岡鐵道、常盤線高浪駅ニ石岐シ 石岡町西郊ヲ經テ志瀬川流域ニ沿ヒテ柿岡町ニ至リ 柿岡鐵道ハ有線ヲ石岡驛ニ石岐シ 今町中ヲ抜ケ 山ノ手縣道ニヨリ 柿岡町ニ至ルモノニシテ 其ノ起業ノ概 正七八

乙

種別	柿岡鐵道	柿岡軌道
一 地方鐵道軌道別	地方鐵道	軌道
一 出願日	大正十三年十二月十五日	大正十三年七月十五日
一 延長	九哩五十大鐘	六哩十八鐘
一 軌間	三呎六吋	一呎六吋
一 動力	蒸氣	ガソリン
一 建設費	五十一万円	十五万円
一 客入	高浪町ヲ至リ海邊入	柿岡町ヲ至リ海邊入

因ニ柿岡軌道ハ先願ニシテ 柿岡地方ノ不便ヲ通感セル同地人士が幾度カ計劃セル後 本軌道トナリテ表ハレタルモノニシテ、又柿岡鐵道、鹿島冬宮鐵道が石岡石岐トナレシ結果 従来霞浦水利ニヨリテ榮ハ



高浜町ノ景徴セシテ概セシ同地人土ガ至トナリテ出  
願セシモノナルガ、柿岡軌道出願者中ニモ線路  
平坦、蒸氣ヲ三呎トシ、交通棧関、便利ヲ知ル相應  
鐵道側ニ傾頭セシモノアリ

### 二、柿岡鐵道ト柿岡軌道ノ優劣

兩者ハ共ニ柿岡區地、入及物資ヲ石岡老ク、省  
線ニ搬出スルヲ目的トスルヲ以テ、然ラズ競願線ナリ  
今實地調査、結果兩者、利害得失ヲ計較ス  
ニ大伴左記ノ如シ

#### 柿岡鐵道ノ利トスル長

一、蒸氣三呎、不時、地方鐵道ナルヲ以テ輸送力

多ク且テ貨車直通ノ利アリ

二、平坦線ナリ。(菟瀬川流域、水田ナレバ)

三、沿道ニ部落人口多ク、此附近一帯ノ人口

分布、菟瀬川、西岸即チ沿道傍ニ集ル

軌道ナリテハ僅カニ林村一ツルニシカトモ一カ

ニ十人以上ニ居ルアリ

四、水陸連絡ノ便アリ。(高浜港)

五、高浜、石岡、柿岡ニ所相互交通ノ便アリ

#### 柿岡軌道ノ利トスル長

一、鹿島及ウズ鐵道ト連絡スル便アリ

二、石岡町内ヲ横断スルヲ以テ兩町間ノ交通ノ

鐵道ニ比シ幾カ有利ナリ

三、建設費廉

可レテ軌道敷設、縣道、石岡、柿岡両町内ニ急勾配アルノミナラズ、林村地内、飯塚以西ハ三十分、一内外、急坂一哩余ニ亘リ、果シテ瓦斯、柿機、園車、耐ハ得ル所ナラバ疑ハレハ、殊ニ本地方、重要産出物タル加波山花剛石、搬出ニ至リテハ採算上運搬不可能ニシテ、軌道、唯一有利トスル鹿島谷、宮鉄道ト、連絡モ、柿岡盆地、交通ガ石岡、若クハ東京ヲ主トスル結果、然カク、重要視スルニ至ルベシ、即チ兩者、比較ニテ、ハ明カニ、柿岡鉄道ヲ以下優レリト断セサレテ得ズ、隨テ以下主トシテ、柿岡鉄道ニテキ復命スベシ

三、柿岡鐵道線路

省線高浜驛ヲ起莫トシ、恙瀨川沿岸、水田ト高浜、石岡間、岡地ト、境界附近ヲ通リ、石岡町東ニ停車場ヲ設ケ、左折、恙瀨川ヲ横断シ、志筑村、小櫻村ヲ經テ、柿岡町ニ達スルモ、ニシテ、地勢平坦ニ事モ亦容易ナルベシ、唯出願、路線ニ依ル箇所ニ於テ、横断スルトキハ、經間約二百呎、橋梁ヲ必要トスベキモ、恙瀨川石岡町東ニ於テ、直ニ恙瀨川ヲ横断セズ、石岡左岸ヲ逆リ、林村字下林附近ニ於テ、横断スルトキハ、經間三十呎、橋梁ニテ、十分ナルベシ、線路、延長モ約一哩ヲ短縮シ、用地費ヲ低減シ得ベク、之ヲ出願路線、建設費ト比較スルトキハ、約拾萬円ヲ輕減スルモ、旅客貨物輸送上、勢力圖ニハ何等

変化ナキヲ以テ建設費、概算書ハ志瀬川左岸ヲ  
通ル路線ニ依リ算出セリ

#### 四 柿岡鐵道勢力圈内状勢

柿岡鐵道敷設ニヨリ最モ便利ヲ受クルモノハ所謂  
柿岡盆地 山根地方ト稱スル一町七ヶ村(名稱前記)約三  
萬ノ人トシテ更ニ本鐵道勢力圏トスルトキハ石岡、萬  
浜、河町、五、志、筑、新、沼、七、會、三、村ヲ加ヘ、十三方里  
五萬五千人ト謂フコトヲ得ヘシ  
而シテ三等勢力圈内ノ状勢ハ別紙第一表所掲  
ノ人口、生産物、車輛數、ニヨリテ詳細ナルガ大体  
農業地域ニ屬シ、林産物及石材ヲ産出ス、就中  
石材ハ本鐵道終點柿岡ヨリ二里異、加波山ヲ以

乙

テ主産地トシ、花剛石、良質(鉄多ク混セズ)ニ於テハ海  
内唯一ノ採石場(管内有テ全國、花剛石ヲ取リヨセ試験、  
結果)現ニ赤坂東官衙所ハ本地産ニシテ其採收  
場タルヒ瀧下場ヲ實見セルガ頗ル規模ノ大ナルモノ  
ニテ金山皆花剛石ナリトハ村長友部重太郎氏、明言  
セラルル所、唯ク地遠隔ナル為メ一般市井ノ用途ト  
シテハ採算上引合、ナル為メ留置シテ放置サルルモ、當  
地方一帯ニ土台石トシテ、板垣、柱トシテ、門柱トシテ、果  
又石垣、橋材トシテ惜シキ迄立派ナル花剛石カ隨所  
ニ使用カレ居ルヲ實見セルヨリ推シ、確カニ其ノ豊富ナル  
ヲ裏書スルヲ得ベシ、加波山麓大塚部落(柿岡ハ一  
里二十八町)ニ於ケル一切ノ石(天四方ニシテ重サ二十貫)  
ハ僅カニ切賃二十貫ニテ購フヲ得ベク、之ヲ帝都ニ於

一円ニ三十匁内外、市價ニ比シ、其差ニ一匁セザルヲ  
 得ズ。因ニ大塚、石岡間一切ノ運賃約不十匁ナリト  
 ス。隨テ本線開通ヨリ、相当有利ナル採算ヲ以テ、  
 切リ出スヲ得ベシ。更ニ筑波、加波、足尾、難台等、  
 左右山腹ニハ官有林三千七百七十町歩、私有林五  
 千百町歩、針葉樹林アリテ以テ、之ヲ又相應林  
 産物ヲ期待シ得ベシ。其他、米、麦、蕎麥、煙草（十  
 一萬八千貫、柿岡専賣支局）等ヲ移出シ、肥料  
 ヲ移入ス。

五 現在高浜、石岡、柿岡、三町間交通

現在高浜町ヨリ石岡町ヲ經由シテ柿岡ニ至ルニ三里余  
 ノ縣道アルモ、高浜、石岡間ハ二哩ニ分ク、國鐵常磐

乙

線アル以外何等交通様聞ナク、石岡驛、柿岡間  
 ニハ左記自動車、馬車ノ定期的ニ運轉スレモ、  
 別ニ高浜港ヨリ荒瀬川ヲ溯リ、柿岡町ニ至ル積  
 載五頓程度ノ舟、或ハ浅キ輕舟二十四艘アリテ、  
 薪炭、日用品等、運搬ニ使事セルガ、洪水時ハ  
 通行セズ、極メテ不便ナリ。又高浜港ハ土浦港ト共  
 ニ霞ヶ浦支部ノ霞ヶ浦船行汽船、終端地トナルモ、其  
 ノ発着ハ一日一回ニ過クズ。外ニ發動貨物船六艘アルモ  
 其ノ般盛ハ到底土浦ニ及バズ。今石岡驛、柿岡町間  
 自動車、馬車、高浜、石岡間、發着人七数ヲ掲  
 ケレハ左ノ如シ。

(1) 石岡驛、柿岡町、交通（石岡、長川野氏調）

客用  
 一 運轉輛數(定期) 貳輛  
 一 運轉回數(往復)  
 目録車  
 一 運賃 一人毫円二十銭(實際、毫円)  
 一日、乘客概算 五十四人

貨物用  
 一 運轉輛數 貳輛(内一輛、不定期)  
 一 運轉回數 二往復  
 一 運賃 一七五円内外  
 一 附業 早マナレバ輸送量不明

外ニ客馬車一輛アリテ毎日運轉セリ

(四)高浜、石岡驛、発着人数数調(本省調査課調)  
 一 高浜駅  
 乗降客数 (大正十一年度) (一日平均)  
 發着七数 二二七、〇三九人 六四九人  
 三、四、八六一七 九六七

二 石岡駅  
 乗降客数 (大正十一年度) (一日平均)  
 發着七数 七五七、七一七 二二四七

因三月五日、實地調査当日午前九時四十分ヨリ十  
 二時迄、石岡、柿岡間ヲ徒歩セシ際、山根地方ヨリ  
 此河馬車ニテ六輛(多クハ木材、米)牛車ニ輛遭  
 遇セリ。

六 柿岡鐵道、經濟

以上ヨリ本鐵道、勢力圏ヲ三町十ヶ村(芥、表)劃シ、  
 之ヲ中等、地方トシ、別ニ加波山石材、及山根一帯、林産  
 物ヲ特殊貨物トシテ、一日五十五七弱、年額ニ萬セテ算入  
 ス。……高浜、石岡、西駅、發着人数、荒瀬川、針

運 加波山石材無盡藏 此山根地方、林産物ヲ考  
 慮シテ、別式ヲニ表計算、如ク

建設費	六十萬円
營業收入	七萬千八百三十五円
營業費	四萬六千十円
益 金	二萬五千八百二十五円
建設費ニ対スル益金年割合	四・三三厘

本計算、大体ニ於テ望實ヲ期シ、内輸ニ見積レルセ、  
 ナルヲ以テ、三四年後ニハ必ラズ相寄收益ヲ得テラレトシ

七. 結論

以上各般 關係ヨリ、綜合シテ、柿岡鐵道ノ敷設ハ最モ

乙

能ク地方開發ニ資スルモノト謂フベク、一面 帝都及横浜  
 兩市ニ目下 炭炭ノ復興ニ多大ノ花崗石ヲ要シ、而モ  
 良質ト近距離ニ於テ尙加波山花崗石ニ優ルモノハ、從  
 未 福田、真壁、地方ヨリ搬出セル年額拾萬也、近ク石  
 材ニ保攝ノ深度加ハレテ隨ヒ生産費ヲ累加シ、アル現代  
 ナレバ本線ノ敷設ハ此莫ヨリ七類ル有望ト目ス、ハ、又株  
 式募集即チ資金調達方法ハ未ダ花崗石ヲ審クニヒザレド  
 高浜、世亨町、其ノ盛衰ニ関ストレテ、出願セル事ナレトモ  
 起人身元調ベタル資産(社事調ニシテ、動産二百二十六万  
 不動産四百八十万円)ヨリ推スモ此レテ 困難ト思ハレズ、唯  
 少 柿岡町自力者間ニテ先願セラレタル 柿岡軌道ト本  
 鐵道トハ互ニ相非濟及目セルヲ以テ、地方平和ヲ為シ、柿  
 岡鐵道會起人ヲシテ、相寄地矣ヲ考慮ヒシメ、尚不

申出資本金及建設費五十萬円、額ニ失スルニ  
ヨリ二十萬円ト改メテセシムル後敷設免許相成可  
然レト認ム

第一表

柿岡鐵道勢力圈内状勢

山根地方

種別	柿岡町	惠瀬村	瓦会村	葦穂村	林村	小幡村	園部村	小栴村	石岡町	志筑村	高浜町	新治村	七会村	合計
人口	3,839	2,700	2,670	3,614	2,687	3,356	3,356	3,317	15,525	2,685	3,642	2,267	3,903	64,561
生産物 { 米 麦 蕎麥	4,042	5,448	5,503	6,187	5,762	6,112	5,351	6,586	12,908	5,340	6,185	5,020	7,762	82,806
	3,824	3,224	4,051	4,060	3,266	2,522	5,880	3,872	10,349	3,102	2,609	2,304	5,490	54,543
	4,292	4,175	1,380	2,509	2,812	4,893	4,325	4,525	8,450	9,500	3,870	4,620	7,273	62,524
自転車	189	112	102	157	132	107	172	120	975	134	200	120	234	2,754
人力車	78	11	15	8	7	28	68	28	932	119	239	184	190	1,907
馬車	10	-	1	-	2	-	1	1	36	1	8	3	2	65
自動車	35	22	35	20	18	29	85	9	151	32	24	21	30	511
	5	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	15

備考

1. 本鉄道敷設により最も利益ヲ享ヘル山根地方ハ
2. 勢力圏ハシテ有リテハ上記十五ヶ所 村五万五千人ニシテ米麥蕎麥等産上ノ權得ルハハハハハ、  
其ノ半数、27281人トス。

裏面白紙



第二表

栲岡鐵道

建設費用概算書

營業收支概算書

線工	費	路預	
事	費	測	
用	費	督	
土	費	地	
橋	費	工	
溝	費	梁	
伏	費	橋	
隧	費	軌	
軌	費	道	
停	費	道	
車	費	場	
器	費	輛	
械	費	建	
物	費	送	
運	費	送	
建	費	車	
建	費	具	
相	費	及	
電	費	境	
電	費	界	
發	費	杭	
變	費	設	
總	費	所	
係	費	所	
備	費		

鐵道標區	種類	形式	間	長	
		地			
		間			
		長			
平均一哩ノ標準人口					
貨物輸送標準					
旅客全					
貨物噸					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					
同每一哩					

萬氣 3'6"  
 干坦綠  
 高路、栲岡間 8'40"  
 空地調査=21 (起率參照)  
 333,686.  
 39,257.  
 特殊貨物 6.5%  
 53.  
 709,306.  
 83,448.  
 229.  
 413.  
 40,042,32  
 4,710,86  
 12,91  
 28,372,24  
 3,337,91  
 9.14  
 3,420,73  
 71,835,29  
 23,15  
 46,010,08  
 14,83  
 25,825,21  
 600,000,00  
 1043  
 有線管、管、綠、T、L  
 特殊貨物の比、石、材、材、材  
 等、年、般、三、万、噸、7、見、込、  
 舊地城ノ標準人口 27,281人

合計 600,000,000  
 付 70,588,235

純益 14,83  
 建設費 25,825,21  
 他線影響 1043  
 建設費=對入ノ純益割合

他線影響 1.  
 記事 2.  
 有線管、管、綠、T、L  
 特殊貨物の比、石、材、材、材  
 等、年、般、三、万、噸、7、見、込、  
 舊地城ノ標準人口 27,281人



乙

柿岡鐵道經過ノ概要

一、大正十二年八月七日戀瀬川沿岸軌道トシテ出願同年九月二十五日知事進達

一、同年十二月十二日鐵内協議會提出 次回廻シ留置

一、同年十二月十五日軌道ヲ地方鐵道ト變更ニ付陳情書提出

即日供覽

一、同年十二月二十四日軌道ヲ地方鐵道ニ變更申請書知事進達

一、出願圖面再調製 一先供覽

一、大正十四年一月二十七日内容審査

一、同年二月二十二日局會提出「實地調査ノ上處分スルコト

ニ決定」

一、同年二月二十五日起業目論見一部變更ニ付追願書提出竝

裏面あり

4/10

既提出ノ軌道書類返付請書提出、即日供覽ノ上既提出  
書類當該事項訂正

一、大正十四年三月二日實地調査員出張同月六日歸廳

一、三月十日局會提出實地調査員口頭復命ニヨリ免許案ヲ具

シ經伺ス

一、同月二十五日實地調査復命書作製

一、同月三十一日建設費六拾萬圓ニ變更談示ノ爲照會

一、四月四日發起人總代出<sup>頭</sup>ニ付談示ヲ爲ス

一、四月六日起業目論見一部變更（資金六拾萬圓）<sup>ニ</sup>追願提

出ニヨリ技術課調査完了

以上

天

31772

局  
13 10 25

土第四〇八九號

大正十三年十二月二十四日

鐵道大臣 仙石 貢 殿

茨城縣知事 次田 大三郎

茨城縣

地方鐵道敷設ノ件副申

縣下新治郡高濱町ヨリ栢岡町ニ至ル間ニ地方鐵道敷設ノ件別紙申請ニ付調査  
 スルニ該區間ニハ何等交通機關ノ設備ナク一般交通ノ不便少ナカラス候ニ付  
 本鐵道ニシテ實現ノ晚ハ是等ノ不便ヲ緩和スルノミナラス地方開發ノ一助ト  
 モ相成將來本鐵道ヲ延長シ水戸小山線ニ接續ノ場合ハ一層便利ト相成有望ノ  
 計畫ト認メラレ且發起人等ハ何レモ地方ニ於テ相當ノ資産ト信用トヲ有シ居  
 リ候ニ付御許可ノ上ハ事業遂行シ得ルモノト被存候間御許可相成候様致度別  
 紙發起人等ニ對スル資産其ノ他ノ調書相添へ此段副申候也

裏面白紙

八〇〇〇〇	一五〇〇〇	八〇〇	三〇〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二五〇〇	二〇〇	三〇〇〇〇	初年概價 不初年概價
二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二六、二五〇	一二二	二〇〇〇〇	不初年概價
農	新米穀 高肥	青物高	米穀 高肥	農	常中 不穀肥	運送業	雜業	農	藏業
全	全	全	全	全	全	全	全	全	種法 度用
全	全	全	全	全	官 海	田 余	神 田	三 村	住 所
小倉庄助	濱田利四郎	廣瀬市之助	植田幸次郎	山口大助	羽成外吉衛	矢口長太郎	吉田松四郎	海東岩一郎	氏 名

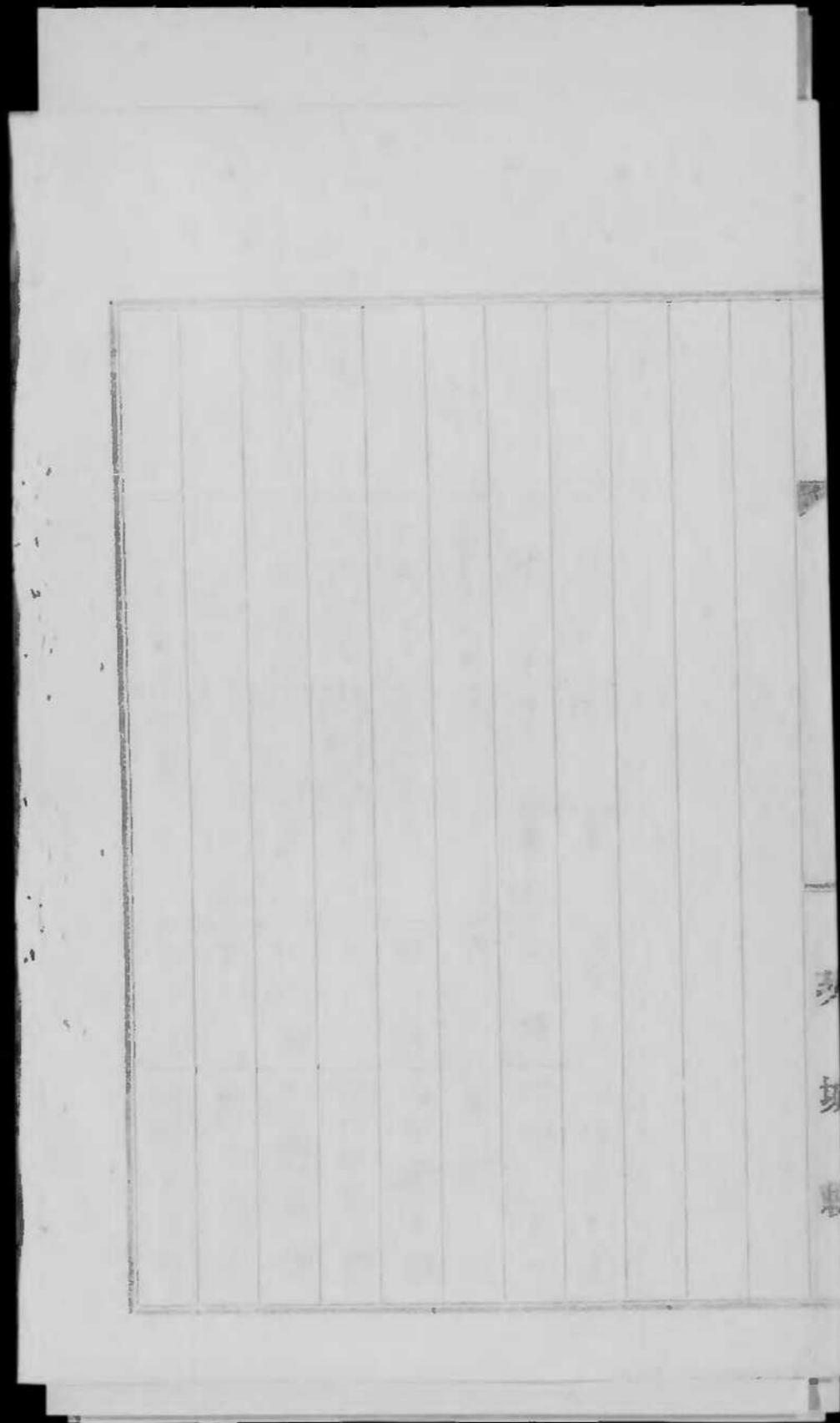
身元  
証書

一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	三五〇〇	八〇〇〇	三五〇〇
八四〇	二〇〇	五〇〇	二〇〇	五〇〇	八〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	二五〇	五〇〇
全	全	全	曹水	糸雨高	神不穀高	尾物高	全	農	柳屋高	王穀高
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
知幅村	全	芦穂村	全	全	全	全	全	全	全	全
飯田林平	流井徳高	中島林吾	中田常三郎	矢畑吉吉	羽成五五郎	塚本源太郎	須田卯之介	小倉左四郎	敷島竹太郎	植田作助

一〇〇〇	八〇〇	五〇〇	二五〇	一五〇	二〇〇	三〇〇	二〇〇	三〇〇	二〇〇	三〇〇
三〇〇	二〇〇	一五〇	四〇〇	二五〇	二五〇	八〇〇	二〇〇	二〇〇	八〇〇	五〇〇
運送業	旅人宿	運送業	酒造業	全	新米穀	旅人宿	荒物高	青物高	造油業	銀行業
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
鼻家文昭郎	田村金兵衛	菅目八郎	廣瀬慶之助	羽成豊助	江橋仁吉	高不亥三吉	柳内隆之助	大土源四郎	世目傳兵衛	豊崎市丸

三〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三〇〇〇〇	四〇〇〇〇	五〇〇〇〇	六〇〇〇〇	七〇〇〇〇	八〇〇〇〇	九〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
二八、八〇〇	一〇、〇〇〇	七五、五〇〇	五〇、七二〇	八、四八〇	二八、〇九九	五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三二、五〇〇	八〇、六〇〇	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
農	不 成 商	農	不 成 肥	農	公 吏	令	令	令	農	令	公 吏
令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令
山陽村	葛尾村	林村	令	令	志 築 村	令	令	令	神 岡 村	令	山 陽 村
山田三郎	久保木三郎	皆川新之助	綿計新太郎	長谷川三郎	磯手三郎	友部重太郎	友部重太郎	大久保三郎	吉田源三郎	大久保三郎	山田三郎

二〇〇	三〇〇	一三三、四〇〇	二四七、〇〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一〇、〇六〇	二、七八〇	二〇、二、二一三	一〇、七、八〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	八、〇〇〇	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令
令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令
山田三郎	櫻井直吉	久保直吉	大和田健三郎	山口龍三助	菊池	太田守一	田田善次郎	令	令	令	令





大正十三年十二月十五日

柿岡鉄道敷設免許願



柿岡鐵道敷設免許願

今般及城縣新治郡高決所右北根本宇西前九百拾八番地三ヶ縣  
左郡柿岡所右柿岡宇上宿定地付或十百拾七番地三至約九哩五  
拾六鎮間三町斯備動力三鐵道敷設一般旅客并貨物  
運輸業ヲ經營致度矣間別紙関係書類及圖面相添及  
申請矣間特別御註議ヲ以テ至急御免許被成下度  
此段奉願不也

大正十三年十二月十九日

柿岡鐵道株式會社

新治郡三村格番屋敷

發起人總代 海東惣一郎

新治郡新治所宮崎町右方決八番地

藤目八郎

今上 大左大橋

小泉 心算

今上 大左方決八番地

山口 大 町

今上 善方六番屋敷

植田 次郎

今上 八八八番地

羽田 重三郎

今上 七百八十六番地

須田 菊次郎

本行部  
本行部

合 上 六万八千五百番地

海月傳三郎

合 上 七万九千七番地

福田恒之助

合 上 八万三番地

植田作助

合 上 八万九千八番地

真木三六之吉

合 上 八万九千五番地

真家文次郎

合 上 九万九千番地

廣隆安之助

合 上 七千七百九番地

殿塚竹太郎

合 上 七万九千番地

成豊之助

合 上 九万九千番地

豊崎角藏

合 上 九万九千七番地

須田卯三助

合 上 八万七番地

塚本淳吉

合 上 八万九千番地

小倉庄次郎



合 上 九万十番地

三束 佐 知

合 上 六千七番地

小倉 庄 助

合 上 八万四千番地

中田 常之助

合 上 八万五千番地

少成 五五郎

合 上 八万十番地

田村 气吉

合 上 七万八千番地

矢 畑 音吉

藏 新造 即 吉 恒 八万番地

大土 源次郎

合 上 一万七千八番地

植 田 吾次郎

合 上 一万八千番地

山口 隆三郎

合 上 一万七千五番地

川口 孫次郎

合 上 一万八千七番地

廣瀬 常三郎

合 上 一万九千九番地

矢口 長次郎

本行前

本行前

本行前  
本行前

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

山田藤右衛門

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

山根利之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

友部直之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

友部直之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

吉田源作

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

中島林吾

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田信之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田林吾

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田信之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田信之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田信之助

合 上 上少楊林太左月岡十人番地

飯田信之助

合上 少橋村在河又右邊地

岡崎辰之助

合上

大字車田千石四十五畝

松川直吉

合上

志氣社在寺前荒田五畝

横手鉄三郎

合上

大字下志氣社在寺前荒田五十三畝

下志氣社

合上

三井三十八畝

太田守市

合上 吉原村在寺前荒田百九畝

江橋仁之助

合上 吉原村在寺前荒田七百一畝

久保本悦藏

合上 吉原村在寺前荒田七百一畝

吉田直吉

合上 吉原村在寺前荒田七百一畝

久松直助

吉原村在寺前荒田七百一畝

保田昌冬

鐵道大臣仙石 貢殿

不要

高浜・柿岡間建設費概算書  
 延長九哩五拾六鎮零節  
 柿岡鐵道株式會社

項	數量	單價	金額	摘要
測量監督費	九.七哩	三〇.〇〇	二九一〇.〇〇	
用地費	一〇.〇反	六〇〇.〇〇	六〇〇〇.〇〇	
土工費	八〇〇〇坪	四〇〇.〇〇	三二〇〇〇.〇〇	
橋梁費	二〇〇呎	六〇〇.〇〇	一二〇〇〇.〇〇	
軌條費	一〇.七哩	七〇〇〇.〇〇	七四九〇〇.〇〇	
停車場費	八ヶ所	六〇〇.〇〇	四八〇〇.〇〇	
機關車費	三輛	六〇〇〇.〇〇	一八〇〇〇.〇〇	
車輛費	一五輛	一三〇〇〇.〇〇	一八〇〇〇〇.〇〇	
諸建物費	一〇棟	一〇〇〇〇.〇〇	一〇〇〇〇〇.〇〇	
通信線費	一〇.七哩	三〇〇〇.〇〇	三二一〇〇.〇〇	
總係費			四〇〇〇〇.〇〇	
豫備費			一〇.一八〇〇.〇〇	
合計			二五〇.〇〇〇〇.〇〇	
一哩當			二五.七七三二.〇〇	

運輸數量概算表

旅客

區間	哩數	人員	哩
高濱	二哩三分	三五五〇	一三七・七五〇
石岡	一哩四分	二一九〇	一九・五〇〇
下志筑	零哩九分	一四六〇	七三〇・〇〇
中志筑	零哩八分	一〇九五	五四七・五〇
五輪堂	一哩二分	七三〇	三六五・〇〇
坂原	一哩一分	一〇九五	五四七・五〇
片野	二哩零分	一四六〇	七三〇・〇〇
柿岡	九哩七分	三六五〇	一八二・五〇〇
高濱			
合計			七二一・七五〇

要



米			薪			石			肥料			雜貨			種類
米	薪	石	米	薪	石	米	薪	石	肥料	雜貨	肥料	雜貨	種類	區	
麥	炭	炭	麥	炭	炭	麥	炭	炭	麥	炭	麥	炭	麥	炭	間
		塚原			五輪堂			中志筑			下志筑		石岡	高濱	貨物
	一・一哩			一・二哩			零・八哩					一・四哩		二・三哩	噸
六。	一〇〇。	五〇。	七三〇。	一〇〇。	二〇。	七三〇。	五〇。	三〇。	一五。	五〇。	四五。	八〇。	二六〇。	二〇〇。	噸
二四。	四〇〇。	二〇〇。	二九二〇。	四〇〇。	八〇。	二九二〇。	二〇〇。	一三〇。	六。	二〇〇。	一八〇。	三三〇。	一〇四〇。	八〇〇。	哩
															摘
															要

合計	石 棧	葉 煙 草	蒲 藪	木 炭	米 麦	薪 材	米 麦
	高 濱					柿 岡	片 野
			九 七 哩				二 哩
	五 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	三 〇 〇	一 〇 〇	二 〇 〇	七 〇 〇
一 五 七 七 〇	二 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇	四 〇 〇	一 二 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇	二 八 〇 〇

營業收支概算書

軌間貳呎六吋動力「カンリン」

區間高浜柿岡延長九哩五拾六鎖零節

柿岡鐵道株式会社

數量金額割合

摘要

旅客人哩	七一七五〇・〇〇	
一哩當	七三三三六・〇〇	
一日一哩當	二〇一・〇〇	
貨物噸哩	一五七七〇・〇〇	
一哩當	一六二五八・〇〇	
一日一哩當	四四・五四	
旅客收入	四二七・五〇	一人一哩付金額六錢、割合
一哩當	四四〇・二六〇	
一日一哩當	一一・〇六	
貨物收入	二二六五五・〇〇	一噸一哩付金額拾五錢、割合
一哩當	二四三八・六五	
一日一哩當	六六八	
雜收入	一〇〇〇・〇〇	
收入合計	六七三六〇・〇〇	
一日一哩當	一九〇・三	
營業費用	三五四〇五・〇〇	
一日一哩當	一〇・〇〇	
益金	三一九五五・〇〇	
建設費	二五〇・〇〇〇・〇〇	

建設費対スル  
益金ノ割合

一割五分八厘弱ニ當ル



委任状

私共

今般海東惣一郎以下部代理人と定て左記事項ヲ委任矣也

一 梅岡鐵道敷設免許ニ至ル迄書類、訂正諸申

請及由ニ関スル一切事項

一 發起人、追加脱退申請ニ関スル事項

一 会社創立ニ関スル委員選任件

一 復代理人選任件

以上

大正十三年十二月十五日

梅岡鐵道株式会社發起人

茲般不新惣一郎以下諸君有以決方寸八尋屋敷

植田 力申次郎

合 計 八十五畧地

並 同傳之信

合 計 八万五千畧地

山口 大 取

合 計 七万九千畧地

福田 恒之助

合 計 八万三畧地

植田 作 助

合 計 八万十畧地

高木 文之夫

令 所 八分或廿五畝地

真原文法所

令 所 叁拾壹畝地

廣原文法所

令 所 廿七畝地  
殿塚竹太郎

令 所 万畝畝地

町成盛出

令 所 所至車田中畝地

世屋崎角藏

令 所 所至京橋八分畝地

塚本清右衛門

新設所 所至京橋七十七畝地

須田外之助

令 所 七方中畝地

須田三右衛門

令 所 八十三畝地

小倉庄次郎

令 所 九方十二畝地

三木地弘

令 所 六十四畝地

小倉庄次郎

令 所 八十四畝地

中田常三郎

本行前

令 所 八丁武北九番地

乃成五丁一

令 所 八丁十番地

田村三丁

令 所 七丁八番地

矢畑吉吉

令 所 八丁三番地

大土源次郎

令 所 六丁八番地

篠目八郎

令 所 五丁大橋

小島 源

本行前

新設所 五丁八番地

植田 晋次郎

令 所 六丁八番地

山口 隆三助

令 所 五丁八番地

川口 孫次郎

令 所 五丁八番地

廣瀬 市之助

令 所 田余村 五丁八番地

矢口 長吉

令 所 少極村 五丁八番地

山田 孫次郎

本行前

本行前  
本行前

合刻高瀬町三丁目七番地

買権利之術

合刻高瀬町三丁目三番地

友部重吉

合所 幸成多地

友部伸

合刻高瀬町三丁目九番地

吉田洋作

合刻高瀬町三丁目七番地

中島林吾

合所 所存吉生多番地

荒井松

新刻高瀬町三丁目五番地

飯田林平

合所 所存吉生多番地

飯田信之助

合刻高瀬町三丁目五番地

大島世之助

合刻高瀬町三丁目五番地

細川柳之介

合刻高瀬町三丁目五番地

山崎辰之助

合刻高瀬町三丁目五番地

山崎辰之助



令 新嘉坡同古或地

横手 彦吉

令 郡志部中宗家古地

横手 鉄三郎

令 新嘉坡同古或地

下 宗三郎

令 郡志部中宗家古地

太田 守市

令 新嘉坡同古或地

江 松仁三郎

令 新嘉坡同古或地

久保 本悦藏

新嘉坡同古或地

吉田 松也郎

令 新嘉坡同古或地

久松 直助

新嘉坡同古或地

保田 昌方郎

鉄道大臣仙石 貢殿

委任状

私儀

今般海東惣一郎以テ部代理人ト定メ左証事項ヲ委任ス也

一 柿岡鉄道敷設免許至止書類、訂正諸申請

及届関一切事項

一 發起人追加脱退申請関一切事項

一 本社創立関一切委員選任件

一 復代理人選任件

以上

大正拾陸年拾月拾日

羽塚平三郎



定  
款

柿岡鐵道株式會社定款

第一章 總則

第一條 當會社名稱ヲ柿岡鐵道株式會社ト稱ス

第二條 當會社目的左ニ如シ

一、一般旅客及貨物運輸業

二、前項ニ関連スル一切事業

第三條 當會社資本金額ヲ金貳拾五萬圓トス

第四條 當會社本店ヲ茨城縣新治郡高浜町ニ置ク

第五條 當會社存立期間ハ免許白書滿五拾年間トス

第六條 當會社公告ヨリス方法ハ東京市於テ発行スル中外商業新報

若水戸市於テ発行スルハハワシ新聞ニ掲載スルモトス

第二章 株式

第七條 當會社株式ハ千株ニシテ株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第八條 當會社株式ハ記名式トシテ株券五株券十株券三種トス

第九條 株券拂込ハ株券存金五拾圓トス

第十條 株券拂込ヲ遲滞シタル者其拂込期日翌日ヨリ金壹圓日歩

金四錢ノ割合以テ延滞利ヲ支拂フコトヲ要ス

第十一條 賣買讓渡相續遺言其他法律ノ手續ニ因リ株式名義書換

ヲ請求スル者ハ當會社所定書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第十二條 株券毀損又ハ分合ニ因リ株券ヲ引換ヲ要ス者ハ當會社所定ノ

書類添付シテ請求スベシ

第十三條 盜難紛失其他事故ニ因リ株券ヲ再交附ヲ請求スル者ハ當會

社所定書類ニ依リ其再交附ヲ要ス事由ヲ記載シ當會社適當ノ認

ル保証人貳名連署シテ請求スベシ此場合旅テハ當會社ハ請求者ノ

保証人貳名連署シテ請求スベシ此場合旅テハ當會社ハ請求者ノ

費用より三日間以上其旨を公告し其最終日ヨリ滿三十日ヲ経テ故障  
ヲ申出ツル者ナキトキハ之ヲ交附ス

第十四條 株券ノ名義ヲ換テ請求スル者ハ普通ニ付金貳拾錢株券ヲ引  
換又ハ再交附ヲ請求スル者ハ普通ニ付金五拾錢ヲ手数料トシテ納  
附スベシ

株券分合場合於ケル手数料算出方法ハ合併在リテ旧株券ノ  
枚数分割在リテ新株券枚数ニ依ル

第十五條 當会社ハ毎決算期日翌日ヨリ其期定時株主總會終了ノ日  
迄株式ノ名義書換ヲ停止ス

臨時株主總會招集ノ通知ヲ為シタル日ヨリ其總會終了ノ日迄亦  
同シ

第十六條 株主又其法定代理人株式取得際其氏名住所及印鑑ヲ届出  
スル其変更場合亦同シ

第十七條 外国ニ住所ヲ有スル株主日本帝国内ニ於テ通知ヲ受クベキ場所又ハ  
代人ヲ定メ之ヲ届出スル若シ此手續ヲ怠リタル為メニ生ジル事故ニ関  
シテハ當会社其責ニ任セス

### 第叁章 株主總會

第十八條 株主總會ヲ分テ定時株主總會及臨時株主總會ノ二トス

定時株主總會ハ毎年六月拾貳月兩度ニ之ヲ招集シ臨時株主  
總會ハ必要ニ於テ臨時ニ之ヲ招集ス

第十九條 總會議長ハ社長之任ス社長事故アル時ハ他取締役之ニ代リ議  
長ハ議事整理上必要ト認メタル時ハ會議ヲ延長若ハ短縮シ又ハ  
会場ヲ変更スルコトヲ得

總會議事ハ出席株主議決權過半数ヲ以テ決シ可ク否同數ナル

時、議長之ヲ決ス

但議長之ヲ為シ自己ノ議決権ヲ妨ケズ

第二十條 株主、代理人及議決権ヲ行フコトヲ得但代理人ハ当会社、株主ニ限ル

第二十一條 總會於テ決議シタル事項ハ決議録ニ記載シ議長及出席株主貳名以上記名捺印シテ会社保存ス

### 第四章 役員

第二十二條 當会社ニ取締役拾名以内監査役三名以内置ク

第二十三條 取締役百株以上監査役五十株以上所有スル當会社株主中ヨリ株主總會於テ之ヲ選仕ス

第二十四條 取締役又ハ監査役致員ヲ生シタル時ハ補欠選任ヲ行フ但法定ノ人員ヲ缺カズ且業務ニ差支ナキトキハ次期ノ總會迄之ヲ行ハルコトヲ得

第二十五條 取締役ハ在任中其所有株式中五十株ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第二十六條 取締役、社長、専務取締役、常務取締役、或ハ互選ス

第二十七條 社長ハ當会社代表ノ専務取締役ハ社長ヲ補佐シ全般業務ヲ執行ス常務取締役ハ社長及専務取締役ヲ補佐シ其業務ヲ所理ス

第二十八條 取締役ノ任期ハ各年トシ監査役ノ任期ハ貳年トス但シ再選ヲ妨ケズ

取締役及監査役ノ任期ハ最終ノ配当期ニ満スル定時總會前ニ滿了シタル時其終結ニ至ル迄其任期ヲ伸長ス

第二十九條 社長、取締役會、決議以テ支那人ヲ任命シ又相談役顧問ヲ

嘱託スルコトヲ得但シ之カ報酬ハ社長之ヲ定ム

第五章 計 算

第三十條 當会社營業年度ハ十二月一日ヨリ五月末日迄ヲ上半年期トシ六月一日ヨリ十月末日迄ヲ下半年期トス

但シ会社創立後最初決算期日滿六月滿タル場合ハ次期ノ決算期迄延長スルコトヲ得

第三十一條 當会社ノ損益計算ハ總收入金額ヨリ諸経費及損失ヲ控除シタル残額ヲ以テ純益金額トシ前記繰越金額加ヘテ如ク分配ス

法定積立金 百分、五以上

別途積立金 全 上

従業員退職準備金 百分、五以内

役員賞与金 百分、十以内

従業員慶与金 百分、十以内

株主配当金 若 干

後期繰越金 全 上

第三十二條 株主配当金ハ每期決算期末日株主配当ス

但シ株主於テ配当通知ヲ受ケタル後滿一年ヲ経過スルモ之ヲ請求セザル場合ハ其配当ハ當会社ノ所得トス

附 則

左記五件内トス

第三十三條 當会社ノ負擔スル創立費用ハ金庫内以外トス

第三十四條 本定款ニ定メテ事項關シテ總テ法律ノ規定ニ因ル

第三十五條 本定款ニ關シテ必要ナル細則ハ取締役会ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

以 上



裏面白紙



理由書

- 一、本鉄道沿線ナル足尾加波両山麓ヨリ産出スル殆ントモ限、天産タル花崗岩、搬出并ニ筑波山麓々々本鉄道沿線一帯ヨリ産出スル豐富ナル木材、薪炭、其他米穀、繭、煙草等、搬出ヲ円滑ナラシムルニハ、鉄道ニ據ラザルベカラザルコト、
- 二、前項如キ豊富ナル物産ヲ有シ且ツ又將来水戸線稻田野ニ達スル貫通線完成、既ハ一般貨物并ニ旅客運輸ノ上ヨリ見ルモ、鉄道トモ、有益ナルコト
- 三、沿道各町村有志ヨリ地方開発、為ノ地、際是非共、鉄道ニ變更スルニテ將来ノ大成ヲ期セラレタリトノ熱誠ナル勸告アリタルコト
- 四、第一期線ハ高俣ヲ起スルニ柿岡ヲ終スルトス  
第二期線ハ柿岡ヲ起スルニ赤瀬村ヲ終スルトス
- 五、第三期線ハ赤瀬村ヲ起スルニ水戸線稻田野ヲ終スルトス  
右完成、既ハ常磐線高俣野ヨリ水戸線稻田野ニ貫通シ本縣第一ノ花崗岩産出地タル稻田野ト品貨優良ニシテ殆ントモ限ノ産額ナル加波足尾右材産出地トノ連綿成リ以上ノ大石材産出地ヲシテ最モ近距離ニシテ東京ニ達セシムルヲ得ル、場右ハ是非共、鉄道ノ便ヲ借ザルベカラザルコト
- 六、高俣野ハ赤瀬村ニ臨ミ水陸ノ便最モ良ク停車場構内ヨリ直ニ汽船和船等ニ貨物、積寄并ニ旅客ノ乗換ヨリ得ル、便アリ又石材、木材、薪炭等ノ大貨物ヲシテ汽車便以上ノ便ナラシムルヲ以テ東京へ連綿運搬ヲ得ル、特種便宜アリ之等水陸運輸ノ円滑ナラシムルニハ、鉄道、カヲ借ラザルベカラザルコト

追而高決停車場ハ構ハ擴張ニ最モ自由ナリ

七.

一面名勝旧蹟ノ莫ク見ルモ過日モ東洋大學ノ教授學生  
諸君ノ視察團アリテ未春四月ニハ真宗十派管長ノ  
来来アリ同時ニ関西方面ノ信徒十万人ノ團體アリト聞カ  
ルノ親繼多聖人ノ旧蹟ヲ連綴サスモ最モ妙ナリ親繼多聖人  
ノ著名ナル旧蹟トシテ高決ニ親繼多ノ山書阿見陀如來アリ  
一期線ノ終矣柿岡ハ如來寺アリ二期線ノ終矣大増ニハ  
板敷山大覺寺アリ三期線ノ終矣稻田ニ西念寺々至日  
君海廟アリ以上各地ハ親繼多ノ聖地トシテ最モ著名ナルモニシテ  
我國一般信徒ノ常高仰スル所ナリ本鉄道ノ完成ニ依リ之等ノ  
旧蹟ヲシテ廣ク社会ニ紹介シ一般信徒ノ便ヲ計ルヲ得バ一面思想  
善導ノ一助トモナリ併而本会社亦其ノ恩惠ニ浴スル所ナ

ナルハシ

以上各頃ニ分テ陳述致セシ通り交通上ヨリ見ルモ貨物運輸ノ上ヨリ  
見ルモ此ノ際是非共鐵道ニ変更スル方得策ト認メ中間法免許  
相成リ上ハ即急工事ノ進捗ヲ計リ一日モ早ク開通セシメ地  
方開發ヲ為シ微カク修シテ今因別紙關係書類相添  
ヒ鐵道ニ変更方決願申スニ付何卒特別ノ御註  
議ヲ以テ鐵道ニ変更方決許可ノ上至急ニ決免許相  
成度此ノ及後願申ス也

追而目下ノ經之田上關係ヨリ此地ノ際用地ハ三呎六吋ニ變  
更ト得ル程度ニ買収致置キ軌間ハ一時或六呎ヲ以テ決許  
可相成度重ニ決願申上ス矣

大正拾叁年 月 日

發起右  
人統代海東惣一郎



高濱柿園開建設費概算書

延長九段五拾六號

柿園建設株式會社

項	數量	單價	金額	摘要
測量及監督費	哩 917	3,000 000	2,910,000	
用地費	14010 坪	750 000	10,500,000	
土工費	1390010 吹	4 500	62,550,000	
橋梁費	4090 基	150 000	60,000,000	
軌道費	1110 坪	20,000 000	22,000,000	
停車場費	81 輛	2,300,000	18,400,000	
車輛費	151 輛	4,300 000	64,500,000	
諸建物費	917 哩	1200 000	11,000,000	
通信線路費	917	500 000	4,850,000	
總標費			5,000,000	
豫備費			18,960,000	
合計			60,000,000	
差增費			61,855,700	

營業收支概算書

區 三呎六吋 延長 柴瓦 柿園鐵道株式會社  
區 柿園柿園 延長 柴瓦 柿園鐵道株式會社

摘要

		數量金額割合	摘要
旅客入哩		711,750 00	
- 哩當		73,376 00	
- 日-哩當		20 00	
貨物噸哩		308,100 00	
- 哩當		31,763 00	
- 日-哩當		87 02	
旅客收入		42,705 00	- 人-哩=全大勢1割合
- 哩當		4,402 60	
- 日-哩當		12 06	
貨物收入		46,215 00	- 噸-哩=全大勢5割合
- 哩當		4,764 43	
- 日-哩當		13 05	
雜收入		1,000 00	
收入合計		89,920 00	
- 日-哩當		25 40	
營業費		35,405 00	
- 日-哩當		10 00	
益 全		54,515 00	
建設費		600,000 00	
建設費-割合			九分五厘弱=當り

高濱、柿岡間運輸數量概算表

旅客

柿岡鐵道株式會社

區間	哩數	人員	人哩	摘要
高濱	213	25,550	127,750	
石岡	114	21,900	109,500	
志統	019	14,600	73,000	
粟田	018	10,950	54,750	
高倉	112	7,300	36,500	
珠原	111	10,950	54,750	
比野	210	14,600	73,000	
柿岡	917	36,500	182,500	
高濱				
合計			711,750	

貨物						
種類	區間	哩数	噸数	噸哩	摘要	
雜貨	南洋-石周	213	2000	8000		
肥料	烟-志籠	114	2100	8400		
雜貨			2600	10400		
肥料	志籠-果田	019	800	3200		
米			450	1800		
薪炭			500	2000		
薯			15	60		
石材	栗田-高倉	018	10,500	42,000		
米			500	1,200		
薪炭			500	2,000		
石材			10,500	42,000		
	高倉-裝束	112				
米			200	800		
木材			4500	18,000		
薪炭			1,000	4,000		
	塚原-片野	111				
米			500	2,000		
木材			4500	18,000		

薪炭				1,000	4,000	
			1	50	240	
	生野-柿岡	210				
木炭				700	2,800	
				8,200	32,800	
薪炭				2,000	8,000	
	柿岡-高浜	917				
木炭				1,000	4,000	
				9,500	38,000	
薪炭				3,000	12,000	
				100	400	
葉煙草				1,000	4,000	
石材				9,500	38,000	
合計					308,100	



營業收支概算書

軌間 粵大 動力 蒸氣  
區間 高濱神岡 延長 九哩五拾六續

神岡鐵道株式會社

	數量金額割合	摘要
旅客人哩	711,750 00	
- 哩當	73,376 00	
- 日-哩當	201 00	
貨物噸哩	308,100 00	
- 哩當	31,763 00	
- 日-哩當	87 02	
旅客收入	42,705 00	一人一哩=廿金五錢一分
- 哩當	4,402 60	
- 日-哩當	12 06	
貨物收入	46,215 00	一噸一哩=廿金拾五錢一分
- 哩當	4,764 43	
- 日-哩當	13 05	
雜收入	1,000 00	
收入合計	89,920 00	
- 日-哩當	25 40	
營業費	35,405 00	
- 日-哩當	10 00	
益金	54,515 00	
建設費	600,000	
	500,000 00	
建設費-對不 益金割合	九分五厘	
	益割合弱=十分	

利息 = 利益割合  
750,000 x .7 = 525,000

6 | 54515 | 900  
54  
51

裏面白紙

### 高濱柵岡間建設費概算書

延長 九哩五拾古頓

柵岡鉄道株式會社

項	款 量	單 價	合 額	摘 要
測量及監督費	9.7 哩	3,000,000	29,100,000	
用地費	71.5 坪	1,000,000	71,500,000	
土工費	13,900.0 呎	4,500	62,550,000	
橋梁費	400.0 哩	170,000	68,000,000	
軌道費	9.7 哩	15,000,000	145,500,000	
停車場費	8 輛	2,300,000	18,400,000	
車輛費	15 哩	4,300,000	64,500,000	
諸送物費	9.7	1,200,000	11,640,000	
通信線路費		500,000	4,850,000	
總係費			5,000,000	
豫備費			18,960,000	
合計			500,000,000	
差價			51,546,392	弱

裏面白紙

高濱村周回運輸數量概算表

概 算

區 間	噸 數	人 員	人 哩	摘 要
高 濱	23	25,550	12,7750	
石 志	14	21,900	109,500	
栗 高	09	14,600	73,000	
塚 倉	08	10,950	54,750	
佐 野	12	7,300	36,500	
高 濱	11	10,950	54,750	
高 濱	20	14,600	73,000	
高 濱	97	36,500	183,500	
合 計			711,750	

貨 物

種 類	區 間	噸 數	噸 數	噸 數	噸 數	摘 要
雜 貨	高濱-石周	2000	8,000			
		2100	8,400			
肥 料	石周-志高	2600	10,400			
		2800	3,200			
米 薪	志高-栗田	450	1,800			
		500	2,000			
石 材		15	60			
		10,500	42,000			

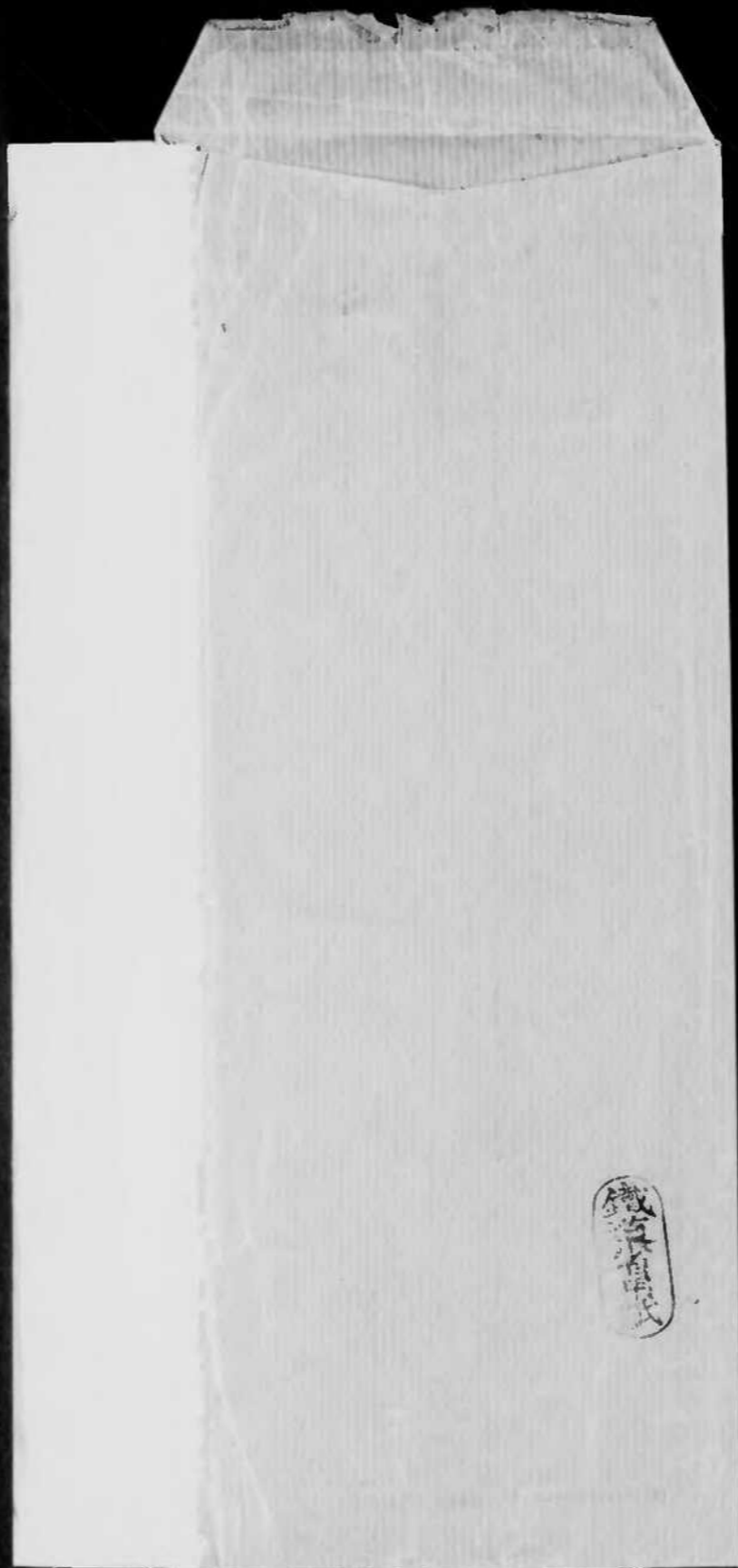
裏面白紙

貨物

種類	區向	噸數	噸數	噸數	摘要
	栗田-高倉	0.8			
米			300	1,200	
薪			500	2,000	
石材			10,500	42,000	
	高倉-塚原	1.2			
米			200	800	
木材			4,500	18,000	
薪			1,000	4,000	
	塚原-佐野	1.1			
米			500	2,000	
木材			4,500	18,000	
薪			1,000	4,000	
藪			60	240	
	佐野-柿岡	2.0			
米			700	2,800	
木材			8,200	32,800	
薪			2,000	8,000	
	柿岡-高濱	9.7			
米			1,000	4,000	
木材			9,500	38,000	
薪			3,000	12,000	
藪			100	400	
葉煙草			1,000	4,000	
石材			9,500	38,000	
合計				308,100	

裏面白紙

建  
茲  
費  
平  
字  
概  
當  
存  
中



復元書

林田嶺直隸縣經界圖

直隸縣經界圖  
三餘



裏面あり

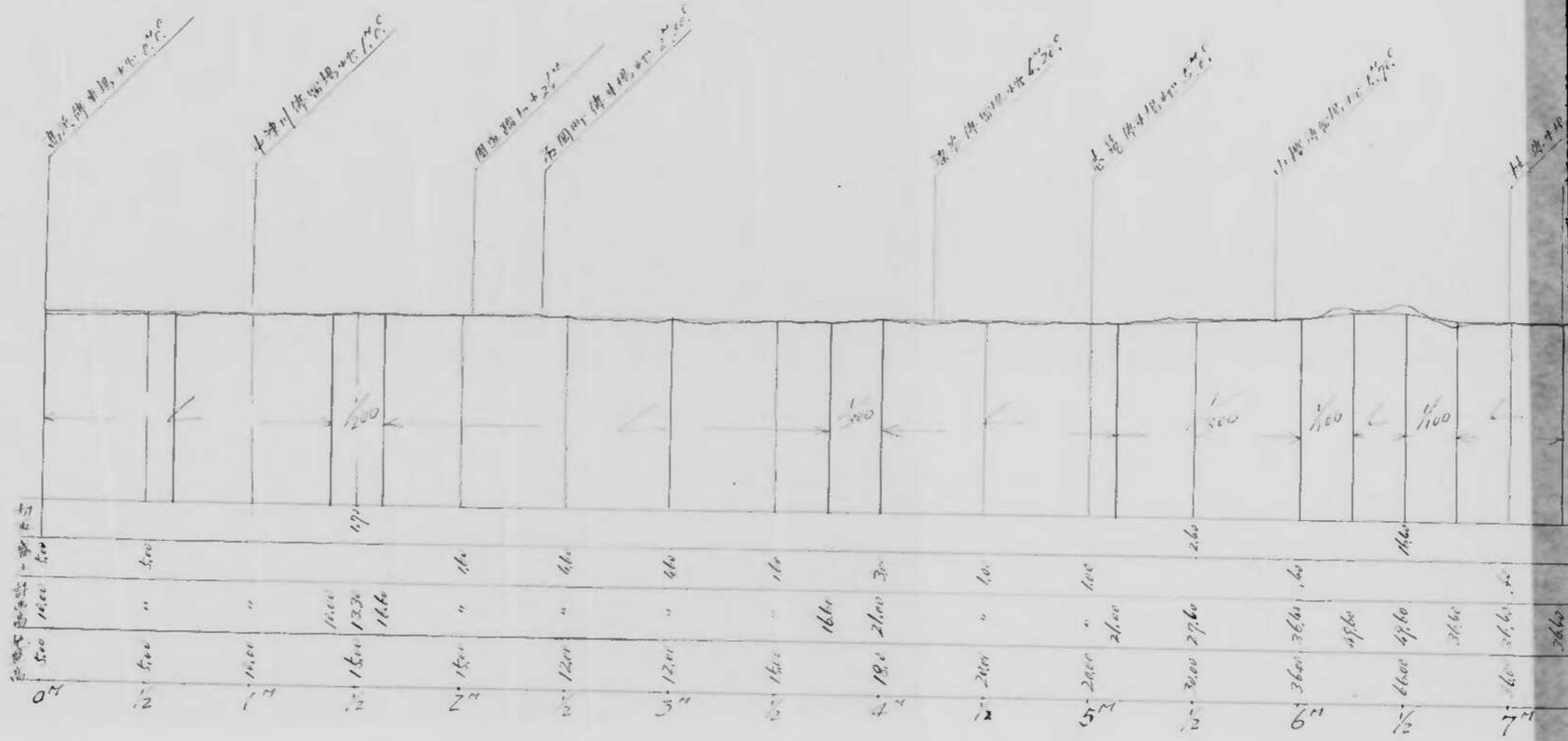
封筒在中物



1 : 35

# 柿岡鐵道線路豫測縱断面圖

縮尺以一寸橫三鎖  
縱百五呎





18  
1.2

1  
1.2

2  
2.3

4  
4.2

5  
5.1

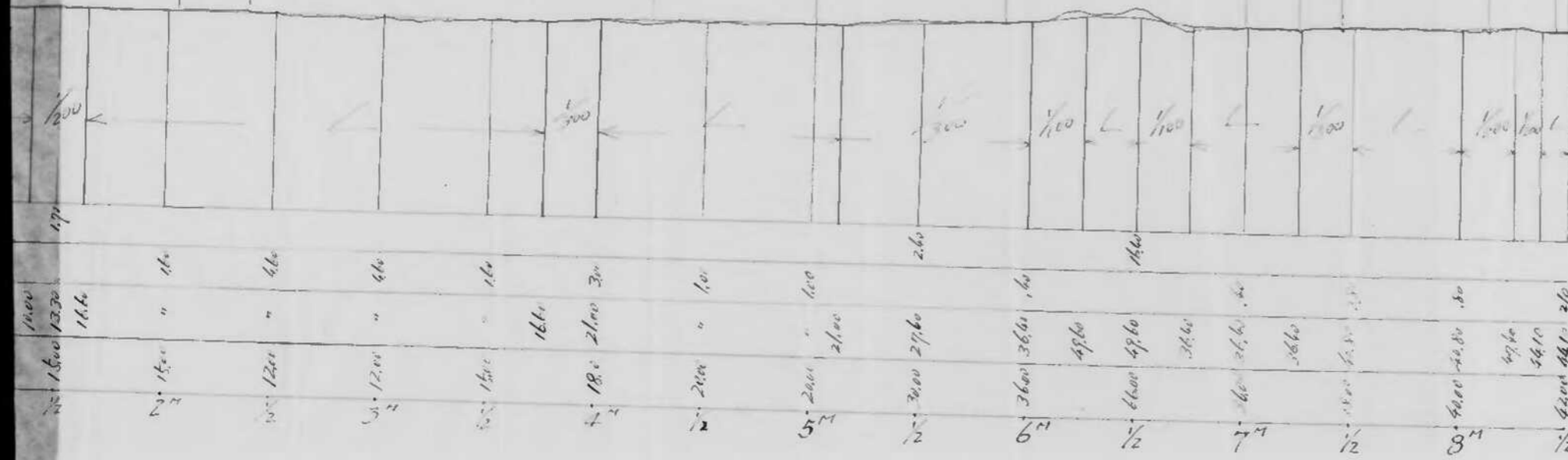
6  
6.2

7  
7.1

8  
8.0

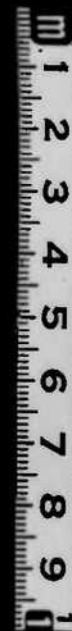
9  
9.0

10  
10.0



1.2  
1.2  
1.6  
1.6  
1.6  
1.6  
1.6  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0  
1.0

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10



大正十三年十二月



柿岡鐵道敷設

追願、要旨

- 1. 志願川沿岸敷設
- 2. 申請社名、柿岡鐵道株式會社
- 3. 正式申請書、縣經由
- 4. 内務省先執照申請、下

書

1 : 25

圖書局  
第 27 号  
13 12 15

大正十三年十二月

柿田

免許請願書



監査印

總務課長

めくれず

御願

私共

大正十三年八月七日附以テ悪瀬川沿岸軌道株式会社ヲ  
創立シ軌道敷設ヲ特許申請仕リ矣又別紙理由ニ依リ地  
方鉄道トシ敷設致度矣間書類引換上請免許相成

度此段及請願矣也  
進而内務省提出申請書類請返戻方相願矣間為念  
申添之矣也

大正十三年十月十五日 十五日

柿岡鉄道株式会社發起人  
茨城縣新治郡三村拾番屋敷  
總代 海東惣一郎

新治縣新治郡三村拾番屋敷

篠目八郎

左様田余村三番屋敷

矢口長石

左様吉原町三番屋敷

山口大

合 所 百三番屋敷

植田博次郎

合 所 八百番屋敷

羽成平之助

合 所 七十七番屋敷

殿塚竹太郎



令所 九百七十五畝地

三束 地 弘

令所 千四百畝地

十 八畝 元 助

令所 八百畝地

中 田 清 三 助

令所 八百畝地

羽 成 丑 五 郎

令所 八百十畝地

田 村 元 三 伴

令所 七百十畝地

矢 畑 音 吉

新居郡高松町高松八百畝地

大 土 源 次 郎

令所 六百七十畝地

植 田 晋 次 郎

令所 六百八十畝地

山 口 龍 三 助

令所 八百八十畝地

廣 瀬 希 之 助

令所 八百畝地

山 田 孫 右 衛 門

令所 五百畝地

友 部 重 右 衛 門

合 所 七 或 地

友 初 伸

合 那 梅 園 公 主 梅 園 分 合 五 十 地

吉 田 淳 作

合 那 甚 橋 石 堂 小 倉 四 七 十 地

中 島 林 吾

合 那 合 村 公 主 生 冬 務 五 地

丸 井 結 松

合 那 甚 橋 村 公 主 甚 橋 百 地

飯 田 林 吾

合 所 百 七 七 地

飯 田 信 三 助

新 加 藤 石 岡 公 主 石 岡 公 主 八 地

大 友 信 三 助

合 那 梅 園 公 主 甚 橋 公 主 五 地

結 川 柳 左 衛 門

合 那 林 村 公 主 甚 橋 五 地

合 那 十 梅 村 公 主 川 又 北 甚 橋 地

岡 崎 辰 三 助

合 所 新 加 藤 公 主 甚 橋 五 地

松 田 九 郎

合 那 甚 橋 村 公 主 甚 橋 公 主 五 地

横 手 鉄 三 郎

令所 一 右 下 表 記 方 右 三 五 地

丁 上 本 公 印

令 那 三 村 右 五 地

大 田 守 中

左 那 官 出 表 方 右 五 五 地

江 揚 仁 三 水

令 所 一 右 五 地

久 保 右 悦 裁

令 那 柳 國 右 五 地 或 右 五 地

土 田 和 治 所

令 那 石 國 右 五 地 或 右 五 地

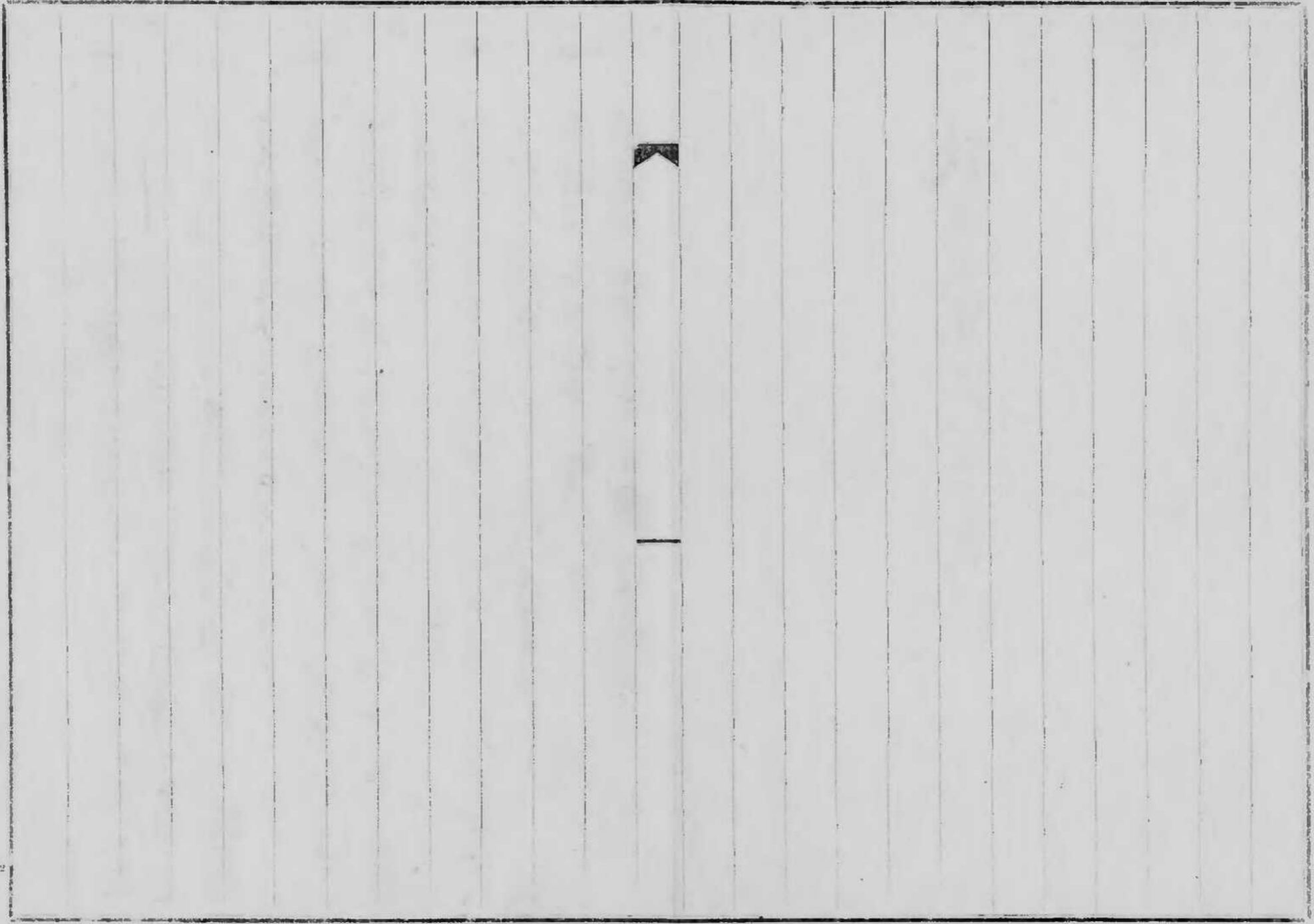
久 松 直 助

東 京 城 郡 政 倉 村 大 字 張 屋 右 五 地

保 田 昌 太 郎

鐵道大臣 仙石 貢 殿





理由書

- 一、本鉄道沿線ナル足尾加波両山麓ヨリ産出スル殆ント毛限ノ天産タル花崗岩搬出并ニ筑波山麓及本鉄道沿線一帯ヨリ産出スル豊富ナル木材薪炭其他米穀之類、煙草等搬出ヲ田沼ナラシムルニハ鉄道ニ據ラザルベカラザルコト、
- 二、前項如キ豊富ナル物産ヲ有シ且ツ又將來水戸線稻田驛ニ達スル貫通線完成暁ハ一般貨物并ニ旅客運輸、上ヨリ見ルモ鉄道トナシ、有益ナルコト
- 三、沿道各町村有志ヨリ地方開発、為メ此際是非共鉄道ニ變更シテ將來ノ大成ヲ期セラレタシトノ熱誠ナル勸告アリタルコト
- 四、第一期線ハ高俣ヲ起スルニ柿岡ヲ終ストス  
第二期線ハ柿岡ヲ起スルニ燕瀬村大増ヲ終ストス
- 五、第三期線ハ燕瀬村大増ヲ起スルニ水戸線稻田驛ヲ終ストス  
右完成暁ハ常磐線高俣驛ヨリ水戸線稻田驛ニ貫通シ本縣第一ノ花崗岩産出地タル稻田驛ト品貨優良ニテ殆ント毛限ノ産額アル加波足尾ノ石材産出地トノ連絡成リ以上ノ大石材産出地ヲシテ最モ近距離ニシテ東京ニ達セシムルヲ得ル場合ハ是非共鉄道ノ便ヲ借ザルベカラザルコト
- 六、高俣驛ハ粟浦ニ臨ミ水陸ノ便最モ良ク停車場構内ヨリ直ニ汽船和船等ニ貨物ノ積寄并ニ旅客ノ乗換ヨリ得ルノ便アリ又石材木材薪炭等大貨物ヲシテ汽車便以上ノ安便ナル運賃ヲ以テ東京へ連絡運搬ヲナシ得ルノ特種便宜アリ之等水陸ノ運輸ヲ田沼ナラシムルニハ鉄道、カヲ借ラザルベカラザルコト

追而高決停車場ノ構ハ擴張ニ最モ自由ナリ

七、一面名勝旧蹟ノ莫ク見ルモ過日モ東洋大學ノ教授學生諸君、視察團ヲリテ来春四月ニハ真宗十派管長ノ来来アリ同時ニ関西方面、信徒十万人ノ団体アリト聞カル、親戀多聖人、旧蹟ヲ連綴サスモ最モ妙ナリ親孝聖人ノ著名ナル旧蹟トシテ高決ニ親戀ノ川書阿見陀如来アリ一期線ノ終点栲田ニ如来寺アリ二期線ノ終点大増ニハ板敷山大覺寺アリ三期線ノ終点稻田ニ西念寺及玉日若湯廟アリ以上各地ハ親戀多ノ聖地トシテ最モ著名ナルモニシテ我国一般信徒ノ崇仰スル所ナリ本鐵道ノ完成ニ依リ之等ノ旧蹟ヲシテ廣ク社会ニ紹介シ一般信徒ノ便ヲ計ルヲ得バ一面思想善導ノ一助トモナリ併而本会社亦其ノ恩惠ニ浴スル所ナ

ナルベシ

以上各頃ニ分テ陳述致セシ通リ交通上ヨリ見ルモ貨物運輸ノヨリ見ルモ此ノ際是非共鐵道ニ変更スル方得策ト認メ中間ニ免許相成カシハ即急工事ノ進捗ヲ計リ一日モ早ク開通セシメ地方開發ノ為ニ微力ヲ尽シタク今回別紙關係書類相添ヒ鐵道ニ変更方請願申上テ付何卒特別ノ御註議ヲ以テ鐵道ニ変更方請願可ノ上至急ニ免許相成度地ノ取及請願申上テ也  
追而目下、経路上關係ヨリ此地、際用地ハ三呎六吋ニ変更古得ル程度ニ買収致置キ軌間ハ時寬六呎以テ免許可相成ル度重テ請願申上テ矣  
大正拾叁年十二月十六日

發起人 右  
統代 海東惣一郎

御 届 書

軌道地方鉄道變更と同時に社名ヲ柿岡鉄道株式会社  
ト變更致候ニ付右社名ニ依リ法詮議被成下度此レ如ク  
法届可也

大正十三年十二月十五日

柿岡鉄道株式会社

發起人物代

海東惣一郎

鉄道大臣仙石 貢殿

一先  
供覽

柿岡鐵道敷設ニ關スル追願要旨供覽

總務課長

業務課長

技術課長

監督局長

要旨

沿道地方貨物ノ激増ト地方交通機關ノ能力發揚ニ鑑ミ及省  
線トノ連絡ノ爲左ノ如ク變更仕リ候ニ付至急即免許相成度

一、軌間 三呎六吋

一、動力 蒸氣

一、事業資金 五十萬圓

裏面白紙

軌間動力變更ニ付御願

大正十三年十二月十五日附ヲ以テ茨城縣新治郡高濱町ヨリ同郡柿岡町ニ  
至ル鐵道敷設免許申請仕候鐵道ハ軌道用地ノミ三呎六吋トシ軌間ヲ二呎  
六吋瓦斯倫動力ニテ開業仕リ將來軌間ヲ三呎六吋ニ變更ノ計畫ニ御座候  
處最近ニ至リ沿道地方ニ於ケル主要特産タル石材ハ帝都震災ノ復興工材  
トシテ急激ナル需要増加ニ鑑ミ且ハ地方交通機關トシテ沿道啓發ニ資ス  
ルニハ軌間ヲ國有線ト同クシ且動力ヲ蒸氣トシテ省線トノ連絡ヲ計リ運  
輸力ヲ増大セシムルヲ最ツトモ適當ナルモノト心得候條候ニ申請候起業  
目論見書中軌間、動力及事業資金等ヲ變更シ關係訂正書類相添仕候間何  
卒特別ノ御詮議ヲ以テ至急御免許被成下度謹テ此段奉願候也

大正十四年二月二十五日

柿岡鐵道株式會社創立發起人

總代 海東 惣一郎

鐵道大臣 仙石 貢 殿

36

75

起業目論見書

一、本會社ハ鐵道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸營業及之ニ關聯スル一切ノ業ヲ爲スヲ目的トス

正本

二、本會社ハ柿岡鐵道株式會社ト稱シ本社ヲ茨城縣新治郡高濱町ニ設置ス

三、本會社ノ事業資金ノ總額ハ金五拾萬圓也ニシテ之ヲ株式壹萬株ニ分チ  
壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス

四、線路ノ起、終點及其ノ主要經過地名左ノ如シ

起點 茨城縣新治郡高濱町大字北根本字西ノ前九百十八番地

經過地名 同縣同郡同町大字中津川

同縣同郡石岡町大字石岡字宮下

同縣同郡志筑村大字下中志筑

同縣同郡石岡町大字染谷

同縣同郡志筑村大字高倉

同縣同郡小櫻村大字半田、塚原、川又

同縣同郡柿岡町大字片野、金指

終點 同縣同郡柿岡町大字柿岡字上宿宅地付二千二百二十七番地

五、鐵道ハ單線トシ延長九哩五十六鎖間トス

六、軌間ハ三呎六吋トス

七、動力ハ蒸氣トス

八、本會社ノ營業年限ハ免許ノ日ヨリ滿五拾ケ年トス

九、車輛ノ最大幅員ハ 呎 吋 ト ス

壹行別除ス





15本

假定款中一部變更

假定款中左ノ通り變更仕候

第三條 當會社ノ資本金ハ金五拾萬圓也トス

第七條 當會社ノ株式ハ壹萬株トシ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第三十三條 當會社ノ負擔スヘキ創立費用ハ金壹萬五千圓也トス

御請書

大正十三年八月七日附申請密瀨川沿岸  
軌道敷設特許書類御下渡相成候  
ニ就テ八別途申請柘岡鉄道敷設書類  
中一部変更行本日追願候書類ハ御有  
ト同様縣廳ニ提出致スル此段及御請  
候也

大正十四年二月三日

柘岡鉄道株式会社

發起人総代 海東總一郎

鐵道省監督局長

寛正太郎殿

主務 總務 事務

甲 鐵道省

林 義 鐵道

鐵道

件名 第二次 地方 鐵道 敷設 1 件

總務課 調査ニ要シタル日數	受付大正 13年 12月 27日	業務課 調査ニ要シタル日數	受付大正 13年 12月 27日	技術課 調査ニ要シタル日數	受付大正 13年 12月 27日
------------------	---------------------------	------------------	---------------------------	------------------	---------------------------

免許

營業

土木

課長 擔任 兼 會計

課長 擔任 兼 營業 會計

課長 擔任 兼 車輛 電氣

生務課 再編 兼 通達

如件ハ 國庫ニ 軌道トシテ 採算

セシ 運賃 酌量 採算 軌道ニシテ

採算 採算 採算 採算

採算 採算 採算 採算

採算 採算 採算 採算

採算 採算 採算 採算

採算 採算 採算 採算

記ノ 高切 (二四二二)

十リニ 其ノ 採算 採算

力ヲ 運賃 採算

三吹 六吹

建設費 採算 採算

採算 採算 採算 採算

採算 採算 採算 採算

裏面白紙

主管  
總務  
業務

甲

柿岡 鐵道

鐵道  
轉道

鐵道

省

+

20

<p>件名 調査 第2次 地鉄 總務課 受付大正14年1月20日 調査ニ要シタル日数 14日</p> <p>課長 擔任 通達</p>	<p>業務課 受付大正14年1月20日 調査ニ要シタル日数 14日</p> <p>課長 擔任 營業 會計</p>	<p>技術課 受付大正14年2月10日 調査ニ要シタル日数 10日</p> <p>課長 擔任 土木</p>
<p>本件内容審査相 手度 軌間及動力の變更 ニ依り建設費の増大 を示す</p> <p>14.3.25</p>	<p>本件在既線に於て 一、建設費概算若くは 用地費の増大を示す 其理由を説明する</p>	<p>線路縦断面図の 提出 未ニ提出スル ニ関シ大體 車輛ニ関シ大體 支障ナシト認ム</p>

備考  
線路縦断面図の提出  
軌間及動力の變更  
ニ依り建設費の増大  
を示す  
14.3.25  
本件在既線に於て  
一、建設費概算若くは  
用地費の増大を示す  
其理由を説明する  
線路縦断面図の  
提出  
未ニ提出スル  
ニ関シ大體  
車輛ニ関シ大體  
支障ナシト認ム

裏面白紙

主管  
事務

甲

柿岡 鐵道

鐵道  
軌道

鐵道省

件名 第3次  
調査

地方鐵道敷設1件

總務課 受付大正  
14年  
調査了大正  
14年

4月  
8日

業務課 受付大正  
14年  
調査了大正  
14年

4月  
8日

技術課 受付大正  
14年  
調査了大正  
14年

4月  
8日

課長 擔任  
統計  
免許  
運送

課長 擔任  
營業  
會計

課長 擔任  
土木  
車輛  
車庫

回答

該市ノ運送建設費ヲ  
六十萬圓ニ定ムル

本件ニ關シテ  
四月九日

車輛ニ關シテ  
支障ナシト認ム

四月一日

30 21

裏面白紙

第 七 七 九 五 號  
 大 正 十 四 年 三 月 四 日  
 大 正 十 四 年 三 月 四 日  
 決 立 裁 案  
 印 書  
 校 者  
 合 印

監 督 局 長  
 總 務 課 長

第 七 七 九 五 號  
 大 正 十 四 年 三 月 四 日

柿 田 鐵 道 會 社 發 行人 總 代 宛  
 照 會

裏 面 あり

客年十二月十五日及本年二月二十五日附  
申請柿田鐵道敷設一件之旨、該子敷  
設至敷有之旨、付書為二出頭、申、本、年、

出入出頭 品川書記官 示、示、  
(二四四四)

諸事事項

1. 建設費八金六十萬圓ニ於テ、  
右書第一條ニ於テ、起書目録之書、建設費  
概算書及起書目録概算書ヲ訂ス
2. 概算書及起書目録概算書ヲ訂ス
3. 概算書及起書目録概算書ヲ訂ス

局督  
 2432  
 14. 4. 8

追願

私共儀等

大正十三年十二月十五日附ヲ以テ申請仕候柿岡鐵道敷設書類中御省ノ御指示ニ依リ事業資金ノ總額ヲ金六拾萬圓也ニ變更シ之ニ伴フ書類ヲ別紙ノ通り訂正仕候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ至急御免許被成下度謹而奉願候  
 追テ追願書及添付書類ハ御省通り縣廳既提出書類モ訂正仕候間爲念申添候

大正十四年四月六日

柿岡鐵道株式會社

發起人總代 海東惣一郎

鐵道大臣 仙石 貢 殿



起業目論見書中一部變更

大正十四年二月二十五日附追願起業目論見書記載事項中第三項ヲ左ノ通り變更ス

三、當會社事業資金ノ總額ハ金六拾萬圓トシ之ヲ株式壹萬貳千株ニ分チ  
壹株ノ金額五拾圓トス

假定款中一部變更

第三條 當會社ノ資本金ハ六拾萬圓トス

第七條 當會社ノ株式ハ壹萬貳千株トシ壹株ノ金額ヲ金  
五拾圓トス